

## 全建総連 支援対策本部ニュース(No.61)

全建総連 東日本大震災支援対策本部  
ニュースは全建総連 HP にも掲載しています。 <http://www.zenkensoeren.org/jishintaisaku.html>

### 全建総連福島からの報告

## 神奈川県連、長野県建設労連が激励に

神奈川県連の内藤勝義会長、渡部三郎書記長、名和幸男住宅対策部長、森正次財政部長、高橋健二執行委員、川崎建設労働組合連合会の野口雅人事務局長、そして神奈川土建の遠藤成彦常任書記が8月5日、全建総連福島に来所されました。名和部長のトラックにきれいに敷き詰められたたくさんの支援物資、大工道具と心温まる義援金を頂きまして、御礼を申し上げます。支援物資は会館内に神奈川県連、全建総連福島の仲間が総出で搬入したところです。



神奈川の仲間からの善意を受け取る



(↑写真上) 会議室を埋め尽くす支援物資  
(←写真左) 全員総出で支援物資を搬入

全建総連福島からは、宮地明、高萩多喜蔵両副執行委員長、清水恵蔵書記長、山崎久夫震災対策事務局長が対応しました。清水書記長は、「中建国保のレセプトを見ると、県外全ての都道府県に我々の組合員が避難しており、神奈川県にも避難している。もし福島の間を見つけたら、ぜひ力を貸して頂きたい」と、原発事故による長期的な避難に協力をお願いしました。

渡部書記長は、「福島県の場合は、東京電力の原発事故の影響で、仮設に入っても、

それから2年間で戻るといことが難しい状況にある。制度の根本的な見直しが必要だ」と、岩手、宮城とは違った対応の必要性を話されました。

当日は全建総連の徳本茂住宅対策部長も同席し、福島県の仮設住宅建設状況について報告がありました。多少の期間延長はあったものの、今月10日頃には全ての現場で完了し、プレハブ協会の分で97戸、福島県の分で400戸の建設をすることができました。「5月からの3ヶ月余りで全国の仲間の応援も借りながら計451人の組合員が従事し、その内全建総連福島の組合員は237人が従事するなど、当初の目的であった被災者への仕事確保も、原発事故による避難者は遠方に避難しているので、なかなか難しいこともあったが、一定程度達成したのではないか」との総評もありました。

その後、長野県建設労働組合連合会の関勝執行委員長、林衛副執行委員長、宮川信一書記次長、宮澤昭彦次長も同日に来所され、義捐金を頂きました。当日は東北道が事故の影響で、短時間での対応となってしまったことをお詫びするとともに、激励に駆けつけてくださり厚く御礼を申し上げます。

帰路の途中では、白河市の仮設住宅建設現場で働く組合員を激励されるということで、義捐金、支援物資、仮設住宅建設と、多くの善意を頂きました神奈川県連、長野県建設労連の仲間に改めて感謝申し上げます。頂いた支援物資は、被災の激しい浜通りの組合員を中心に大切に活用させていただきます。

## 岩手県連からの報告

### 岩手にも義捐金 長野県建設労連

8月4日、長野県建設労連から関勝執行委員長、林衛副執行委員長、宮川信一書記次長、宮澤昭彦次長が激励のため来訪されました。

齋藤徳重会長が会議で不在のため工藤喜代美副会長が対応し、互いの県連の被害状況や、被災者の避難の状況等を話し合いました。

長野でも建物被害が多く大変だったそうですが、当連合会に対する労いの言葉と共に、義捐金(100万円)を受け取らせていただきました。

長野県を早朝に出発され、長時間の道のりをお越しいただいたとのこと。お心遣いに感謝申し上げます。



関委員長(写真右)から工藤副会長に義捐金を手渡す

## 東京土建渋谷支部が折鶴と支援金

【本部長 齋藤徳重】

7月16日、東京都連東京土建渋谷支部より、小倉常良副執行委員長、佐藤里志書記長、齋藤眞生執行委員が、岩手県連事務所へ折り鶴と支援金を持参してご訪問いただきました。



岩手県連・齋藤会長(中央)に支援金を手渡す



心がこもった見事な折り鶴

今年、メーデーの時にデコレーションとして使用した、3万羽の折り鶴の一部で作られています。まとい型の赤・白のメン折り鶴が飾っており、仲間の気持ちが伝わってくる品物です。

被災地事務所へ届けて、激励します。本当にありがとうございました。